

第1章 都市の概況

1-1 地域概況

(1) 位置

本市は徳島県の東部、那賀川の河口に位置しており、東は紀伊水道、南は太平洋に面し、和歌山県からは60 km、神戸・大阪からは100 km内外の距離にあります。

市域は東西約32 km、南北約22 kmであり、総面積は279.47 km²（平成22年現在）で、徳島県全体の6.7%を占めています。

本市は、平成22年国勢調査人口（速報値）7万6千人を有する徳島県南部の産業、経済、文化の中心都市であり、県南地域と県北地域にまたがる徳島市、鳴門市、小松島市をはじめとする5市3町からなる徳島東部都市計画区域の一部に指定されています。

交通は、JR牟岐線と国道55号阿南道路などによって徳島市や県南地域と結ばれています。平成10年の明石海峡大橋の開通により、阪神大都市圏へのアクセス性の向上が図られ、徳島県の県南地域の中核都市として、また、環大阪湾・紀伊水道圏域の拠点としての発展も期待されます。



図1-1 位置図

(2) 歴史的条件

本市一帯は古くから農作物の豊かな地帯で、縄文時代の遺跡や弥生時代の銅鐸、古墳時代後期と思われる墳墓が残されています。

古代、忌部氏が、吉野川流域を開拓したとき、粟がよく実ったので吉野川流域の地域を粟の国といい、一方南の勝浦、那賀、海部三郡のあたりを長（なが）の国というようになったと言伝えられています。

また、平安時代よりの由緒ある寺社も多く、室町時代末期には足利将軍の子孫が阿波公方として当地で過ごし、その歴代をしのばせる史跡や文化財を多く残しています。

近世には、市の中心の富岡は城下町として栄え、富岡に次ぐ市街地である橘は橘街道や橘港により陸海交通の要所としての位置を占めてきました。

本市は、古くは明治12年に那賀郡役所が設置され、昭和29年から30年にかけて12の町村による合併、編入の後、昭和33年5月に富岡町（旧8ヶ町村）と橘町（旧4ヶ町村）が合併して市制が施行されました。

そして、平成18年3月20日に那賀川町、羽ノ浦町の2町と合併し、新しい阿南市として出発しました。

1-2 人口・産業等

(1) 人口・世帯数

1) 人口・世帯数

本市の平成17年人口（国勢調査）は78,002人で減少傾向にありますが、世帯数は年々増加し、平成17年で26,116世帯となりました。

なお、住民基本台帳によると、平成22年3月末日現在の人口は78,041人、世帯数は29,096世帯です。

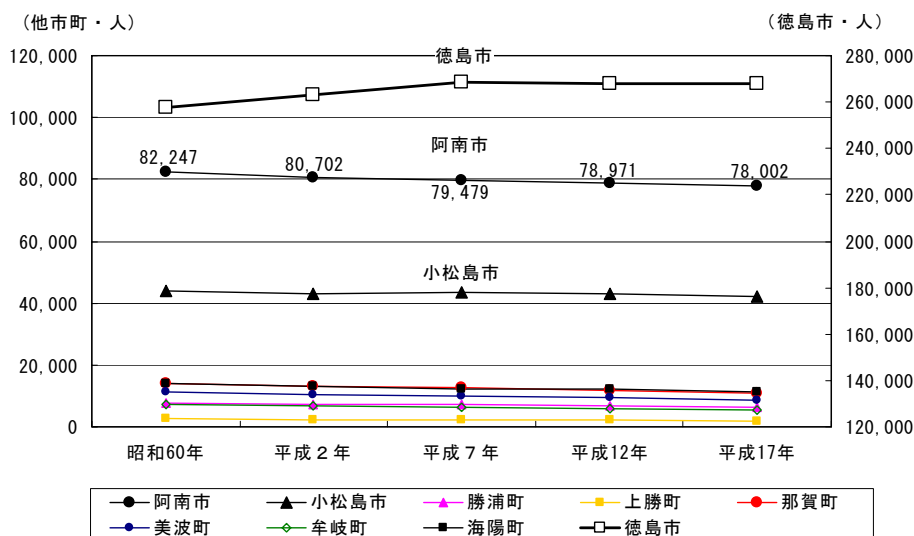
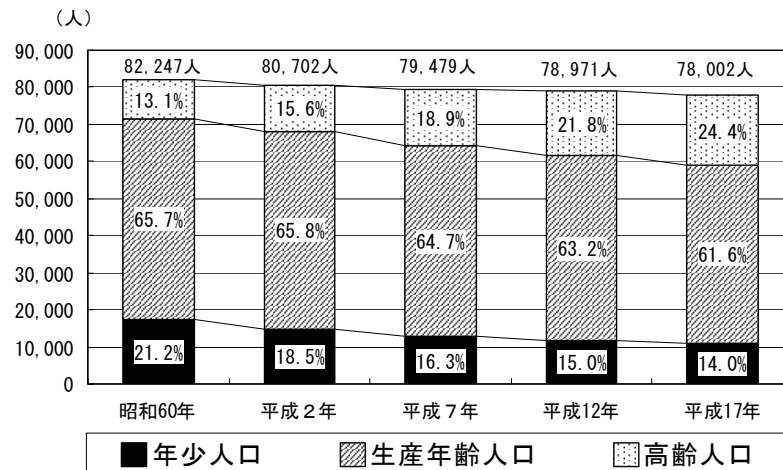


図1-2 阿南市の人口の推移（国勢調査）

2) 年齢構成

平成 17 年（国勢調査）において、本市の総人口は 78,002 人で、うち 15 歳未満の年少人口は 10,948 人（14.0％）です。15～64 歳の生産年齢人口は 48,017 人（61.6％）、65 歳以上の高齢人口は 19,033 人（24.4％）です。昭和 60 年から平成 17 年までの年齢区分別人口構成比をみると、少子高齢化が顕著に現れています。



注：構成比の合計は、年齢不詳があることから 100%にならない場合がある。

図 1 - 3 阿南市の年齢構成

3) 流出入就業者・通学者人口

本市の 15 歳以上の就業者・通学者は、平成 17 年において、流出者数（本市に定住し、市外で就業・通学する者）が 8,703 人、流入者数（本市で就業・通学し、市外に定住する者）が 7,988 人で、流出者数が流入者数を上回り、流出超過となっています。また、自市内就業者・通学者の割合は、78.5%と高くなっています。

本市の就業者・通学者の流出先は、徳島市が 4,529 人で流出者総数の約 52%を占め、次いで小松島市、那賀町となっています。流入は徳島市が 2,648 人で流入者総数の約 33%を占め、次いで小松島市、那賀町となっています。

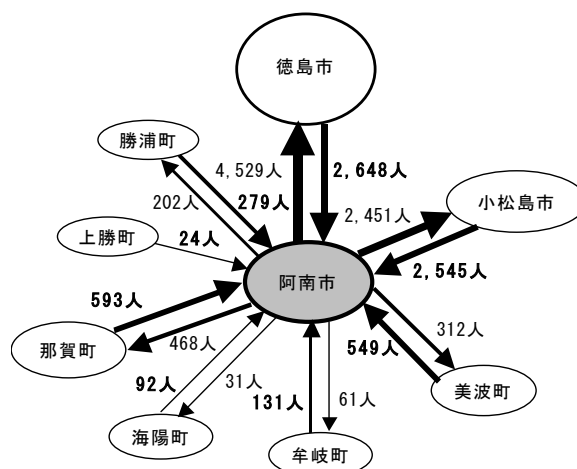


図 1 - 4 通勤・通学による流出流入図

表 1－1 15 歳以上の通勤・通学による人口流動（平成 17 年）

常住地による 就業者・通学 者数（人） A	流出数 （人） B	流出率 （％） B/A	従業地による 就業者・通学 者数（人） C	流入数 （人） D	流入率 （％） D/C	流出超過数 （人） B-D
40,507	8,703	21.5	39,792	7,988	20.1	715

資料：国勢調査

4）人口動態

人口動態については、自然動態（出生、死亡）が減少し、社会動態（転入、転出）も転出者数が転入者数を上回る社会減が続き、人口減少となっています。

5）地区別人口

地区別に人口推移をみると、見能林、那賀川、羽ノ浦の 3 地区では人口が微増していますが、その他の地区では人口が減少しています。

（2）産業

1）産業

産業分類別の従業者数は、平成 18 年において、第 1 次産業が 173 人、第 2 次産業が 10,811 人、第 3 次産業が 20,522 人で、第 3 次産業従業者数が全体の約 65%を占めています。

中分類別従業者数をみると、製造業が 7,781 人（24.7%）で最も多く、次いで卸・小売業の 5,155 人（16.4%）、サービス業の 3,876 人（12.3%）となっています。

本市の産業の推移を見ると、第 3 次産業の従業者数は概ね増加傾向を示していますが、第 2 次産業の従業者数は減少傾向にあります。

事業所数は第 2 次産業、第 3 次産業共に減少傾向を示しています。

表 1－2 阿南市の産業の推移

区分		昭和61年	平成 3 年	平成 8 年	平成13年	平成18年
事業 所 数 (事業所)	総 数	4,705	4,476	4,392	4,192	3,705
	第 1 次産業	23	21	30	31	24
	第 2 次産業	1,111	978	977	855	739
	第 3 次産業	3,571	3,477	3,385	3,306	2,942
従 業 者 数 (人)	総 数	30,860	31,764	33,189	33,598	31,506
	第 1 次産業	257	166	297	224	173
	第 2 次産業	12,683	12,719	12,649	12,533	10,811
	第 3 次産業	17,920	18,879	20,243	20,841	20,522

資料：事業所・企業統計調査報告

2）農業

本市の農業は、平成 17 年において農家数が 4,928 戸、経営耕地面積が 3,616ha です。農家数、経営耕地面積共に減少の傾向にあります。

3) 商業

本市の卸売・小売業は、平成19年で商店数が1,059店、従業者数が4,962人、年間販売額が約944億円です。うち小売業は、商店数が924店、従業者数が4,224人、年間販売額が約653億円です。

小売業の推移を見ると、従業者数、年間販売額共に平成11年をピークに減少傾向にあります。また、商店数は平成6年より減少傾向にあります。

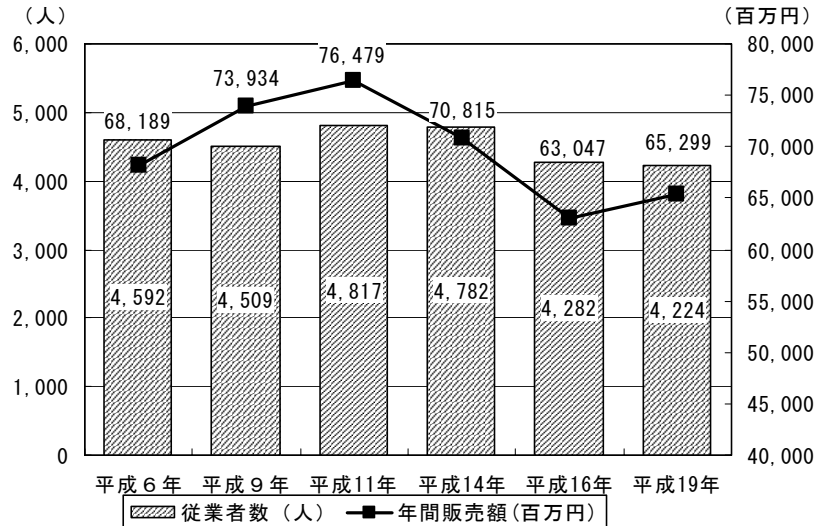


図1-5 小売業の推移

(資料：商業統計表)

4) 工業

本市の工業は、平成18年において事業所数が195事業所、従業者数が8,088人、製造品出荷額等が約3,713億円です。

昭和61年から平成18年の推移をみると、事業所数は減少していますが、従業者数と製造品出荷額等は増加傾向にあります。

平成18年の製造品出荷額等は、パルプ・紙・紙加工品製造業が約786億（構成比21.2%）、化学工業が約621億円（16.7%）で、2業種が大きな割合を占めています。

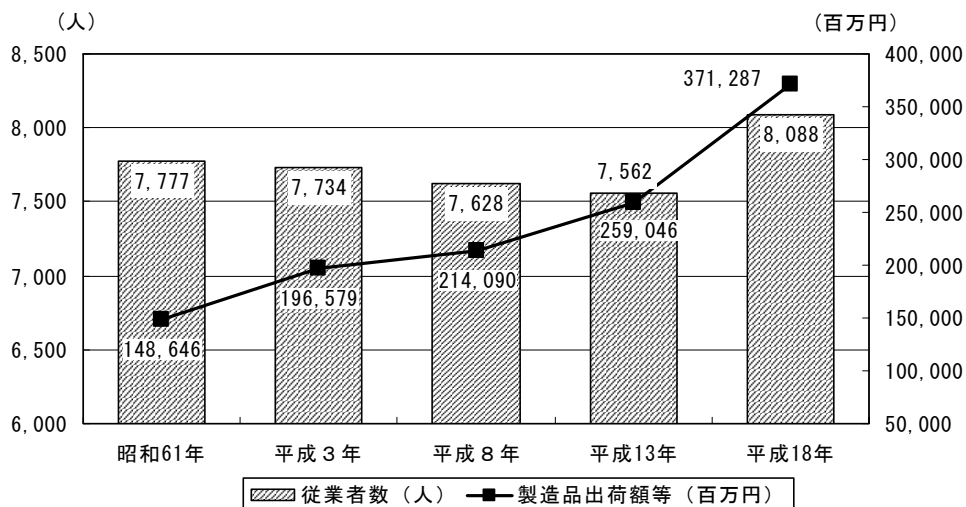


図1-6 阿南市の工業

(資料：工業統計表)

1-3

土地利用条件

(1) 土地利用現況

本市の総面積は平成 19 年において 27,939ha で、うち山林が 10,170ha (36.4%)、田畑が 5,374ha (19.2%)、宅地が 1,556ha (5.6%) となっています。

都市計画区域内の土地利用は、自然的土地利用が約 74%、都市的土地利用が約 26% となっており、うち農地が約 31%、山林が約 27%、宅地が約 14% となっています。

本市の市街化区域は、主に東部の平野部に立地しています。J R 牟岐線の阿南駅を有する富岡地区が市の中心市街地を形成しており、商業系土地利用の広がりが見られるほか、橘地区をはじめとする幹線道路への沿道商業の立地が目立ちます。工業系の土地利用は、臨海部北部の工業地域と中部の橘港が大きな面積を占めています。

市街化区域の縁辺部においては、比較的まとまりのある農地や工業地内の低・未利用地が点在しています。

表 1-3 阿南市の土地利用 (平成 19 年 1 月 1 日)

(単位: ha、%)

合計	田	畑	宅地	塩田・池沼 鉱泉地	山林	牧場・原野	雑種地	その他
27,939	4,195	1,179	1,556	48	10,170	57	444	10,290
(100%)	(15.0)	(4.2)	(5.6)	(0.2)	(36.4)	(0.2)	(1.6)	(36.8)

資料: 阿南市勢要覧 2008 資料編

表 1-4 都市計画区域の土地利用別面積

	自然的土地利用							都市的土地利用											合計	可 住 地	非 可 住 地			
	農地			山 林	水 面	そ の 他 の 自 然 地	小 計	宅地							公 益 施 設 用 地	道 路 用 地	交 通 施 設 用 地	公 共 空 地				そ の 他 の 公 的 施 設	そ の 他 の 空 地	小 計
	田	畑	小 計					住 宅 用 地	商 業 用 地	工 業 用 地	小 計													
	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha		
市街化区域	126.4	45.4	171.9	22.0	31.5	44.5	269.9	261.5	87.6	325.3	674.4	167.8	126.2	5.3	10.0	0.0	45.3	1,029.0	1,298.8	634.7	664.1			
市街化調整区域	2,590.1	342.9	2,933.1	2,697.3	991.7	573.4	7,195.4	494.2	104.4	91.3	690.0	158.0	456.2	5.4	55.0	2.2	277.2	1,643.8	8,839.2	6,590.1	2,249.1			
合計	2,716.6	388.4	3,104.9	2,719.2	1,023.2	617.9	7,465.2	755.7	192.0	416.7	1,364.3	325.8	582.3	10.7	65.1	2.2	322.4	2,672.8	10,138.0	7,224.8	2,913.2			
構成比（％）	26.8	3.8	30.6	26.8	10.1	6.1	73.6	7.5	1.9	4.1	13.5	3.2	5.7	0.1	0.6	0.0	3.2	26.4	100.0	71.3	28.7			

非可住地=水面+その他の自然地+公益施設用地+道路用地+交通施設用地+その他の公的施設用地+工業専用地域 (276.85ha)+商業用地1ha以上 (9.24ha)

図上計測

工業専用地域は380.7haから道路、公共公益施設、水面等の面積を引いた数値です。

※四捨五入の関係から、合計値と下一桁で合わない項目があります。

※資料: H19 都市徳島東部都市計画区域徳島市他都市計画基礎調査

(2) 土地利用規制

本市は徳島東部都市計画区域に含まれ、平成 20 年現在において行政区域のうち 10,138ha が都市計画区域です。昭和 46 年 5 月に市街化区域及び市街化調整区域の区域区分 (線引き) を行い、その後数回の見直しを経て、現在は都市計画区域の約 13% に当たる 1,299ha が市街化区域、8,847ha が市街化調整区域に指定されています。

各種法規制としては、地域森林計画対象民有林、農業振興地域、国定公園、自然公

園、用途地域などがあげられます。

市街化区域の用途地域は、住居系用途地域が 607.0ha（市街化区域の 46.7%）、商業系用途地域が 92.3ha（同 7.1%）、工業系用途地域が 599.5ha（同 46.2%）となっています。

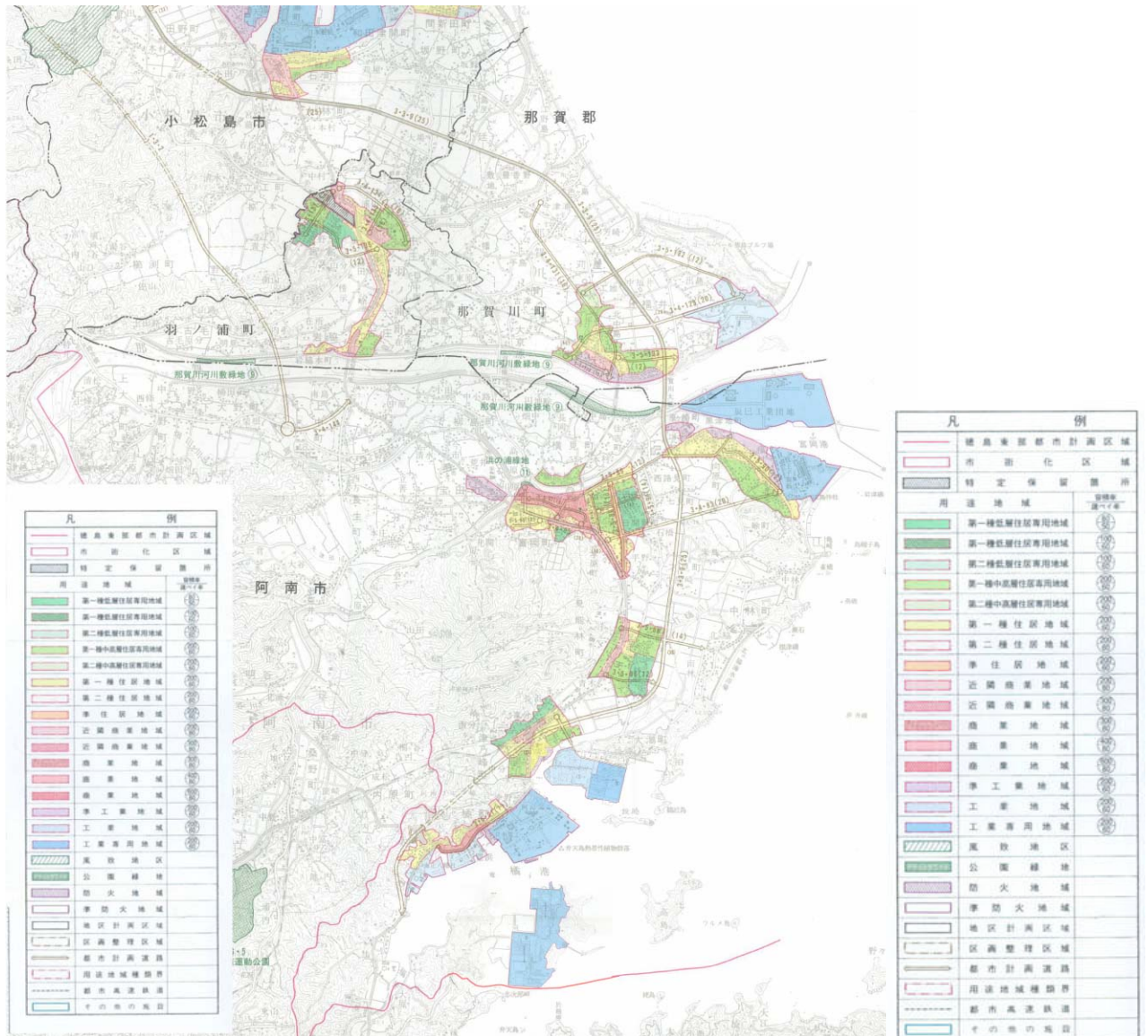


図 1-7 用途地域図

（３）新築状況

年間新築件数は概ね減少傾向にあり、うち住宅系の新築件数は市街化調整区域が市街化区域の件数を上回っています。

（４）農地転用状況

年間の農地転用件数は、市街化調整区域の件数が市街化区域の件数を上回っています。また、市街化調整区域の件数は減少傾向にあります。

(1) 道路

本市の道路網は、南北方向の国道 55 号及び国道 55 号阿南道路、東西方向の国道 195 号を骨格とし、主要地方道、一般県道、市道により形成されています。

富岡地区の市街地部を通過している国道 55 号は過密状態にあることから、バイパスの建設が進められ、国道 55 号阿南道路は、現在津乃峰地区の市街地まで供用されています。

本市の都市計画道路の計画延長は平成 20 年度末において 55.59 km で、うち改良済が 31.87km で、改良済の整備率は 57.3%です。これは、全国の平均整備率 56%とほぼ同じ整備率です。

(2) 公共交通

本市は、県南地域を貫く J R 牟岐線が南北に走り、J R 羽ノ浦駅、西原駅、阿波中島駅、阿南駅、見能林駅、阿波橘駅などの 9 駅を有しています。

バス路線は、徳島バスと徳島バスの分離子会社である徳島バス阿南が運行しており、市内の主要施設を連絡しています。

近年、マイカー需要の増大と道路整備の進展に伴い、鉄道及びバスの利用者は減少傾向にあります。

(3) 公園・緑地

本市の供用されている都市公園は、平成 22 年 3 月末において 31 箇所あり、合計面積は 22.23ha です。

都市緑地としては、那賀川河川敷（第 1・第 2・第 3）緑地、浜の浦緑地の 4 箇所、10.63ha が整備されています。

近隣公園としては、阿南西部公園、東部自然公園、羽ノ浦桜つつみ公園などの 8 箇所、8.68ha が整備されています。

街区公園としては、出島恐竜公園、那賀川児童公園、阿南駅前児童公園などの 18 箇所、2.17ha が整備されています。

都市計画公園は、街区公園のうち 6 箇所と南部健康運動公園の計 7 箇所、70.80ha を決定し、うち平成 22 年 3 月末日において 8.92ha が供用されています。

(4) 上水道

阿南市営の水道事業は、1 上水道事業及び 8 簡易水道事業で構成されています。

平成 18 年 3 月の那賀川町・羽ノ浦町の編入に伴い、旧阿南市、旧那賀川町、旧羽ノ浦町の水道事業が統合され、誕生した上水道事業は給水人口の約 93%に飲料水を供給しています。また、簡易水道事業は、集落単位で整備された小規模な水道事業で、給水人口の約 4%に飲料水を供給しています。



図1-8 鉄道・道路網図

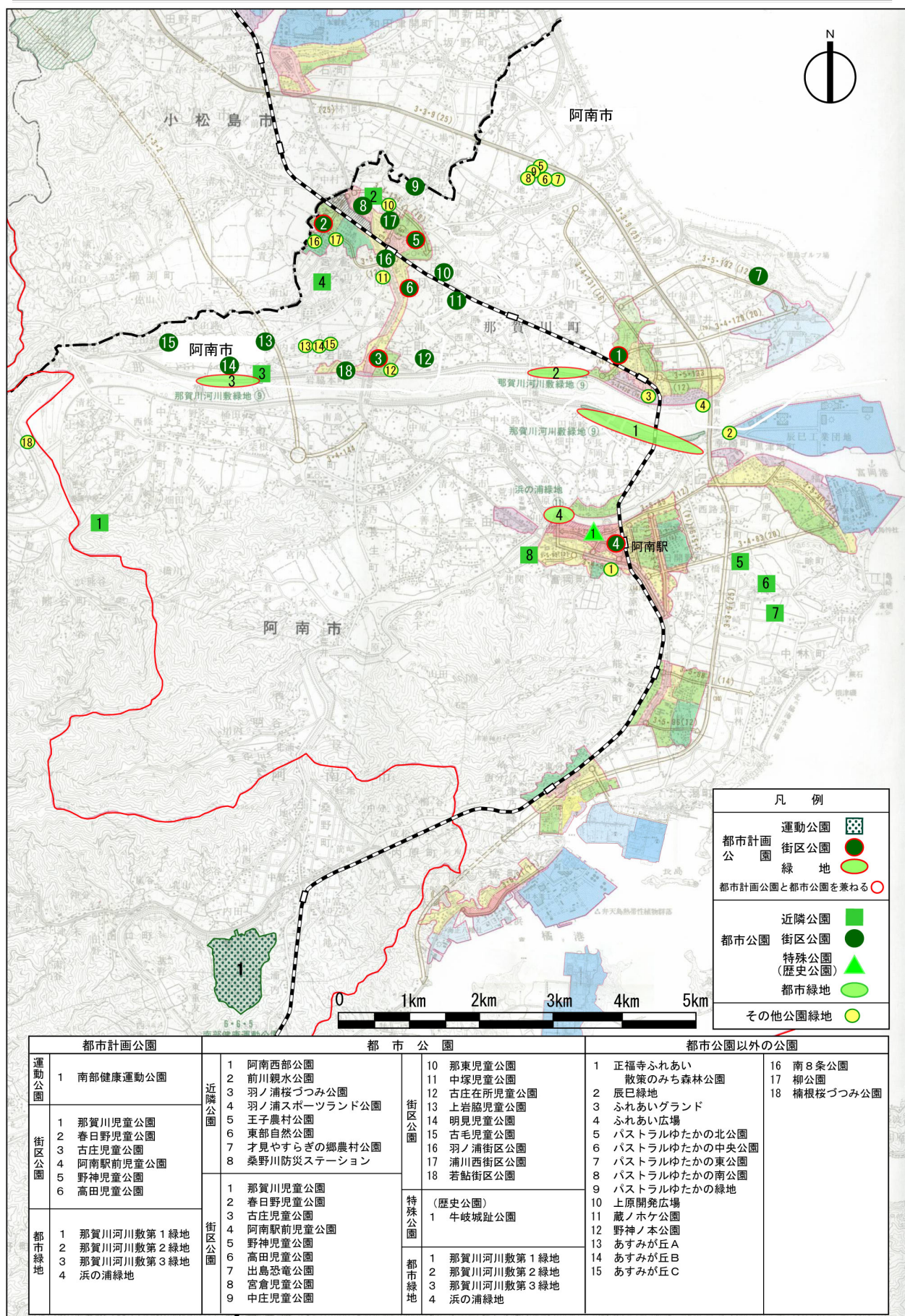


図1-9 公園・緑地分布図

（５）下水道

下水道は、雨水を処理する都市下水路と汚水及び雨水を処理する公共下水道からなります。

本市では、都市の健全な発達、公衆衛生の向上、生活環境の改善及び公共用水域の水質保全を図るため、公共下水道事業として、平成6年度より平島処理区、平成11年度より富岡処理区（現：打樋川処理区）に着手しています。

打樋川処理区の全体計画区域は676haで、うち都市計画決定区域は287.9haです。また、平島処理区の全体計画区域は276.7haで、うち都市計画決定区域は174.4haです。

事業計画は、打樋川処理区では本市の中心市街地である富岡地区と、富岡港に面し国道55号阿南道路の開通に伴って住宅地として発展することが予想される富岡東部地区及び見能林地区、津乃峰地区を合わせた676haを20年計画で策定しており、現在、JR牟岐線以西の富岡地区80.8ha（事業認可区域）の整備を進めています。

平島処理区では全体計画276.7haで、現在95.06ha（事業認可区域）の事業認可を受けています。

また、その他汚水処理施設として、農業集落排水処理施設、コミュニティプラント、小型合併処理浄化槽の整備も行っています。

（６）公共公益施設

行政サービス施設、教育・福祉施設などの主要な公共公益施設の多くは、市街地の中心部である富岡地区に集中しています。

本市には、小学校が26校、中学校が10校、県立高等学校が5校（富岡東高等学校羽ノ浦校1を含む）、支援学校が1校、工業高等専門学校が1校あります。いずれも生徒総数及び学級数は減少し、また、小学校4校（平成20年度現在）が休校となるなど、少子化、人口減少といった全国的な人口動向が本市においても見られます。

地域の文化施設としては、市民会館や文化会館、公民館などが立地しているほか、観光レクリエーション施設として阿南市武道館、阿南市スポーツ総合センター、B＆G海洋センターなどが立地しています。

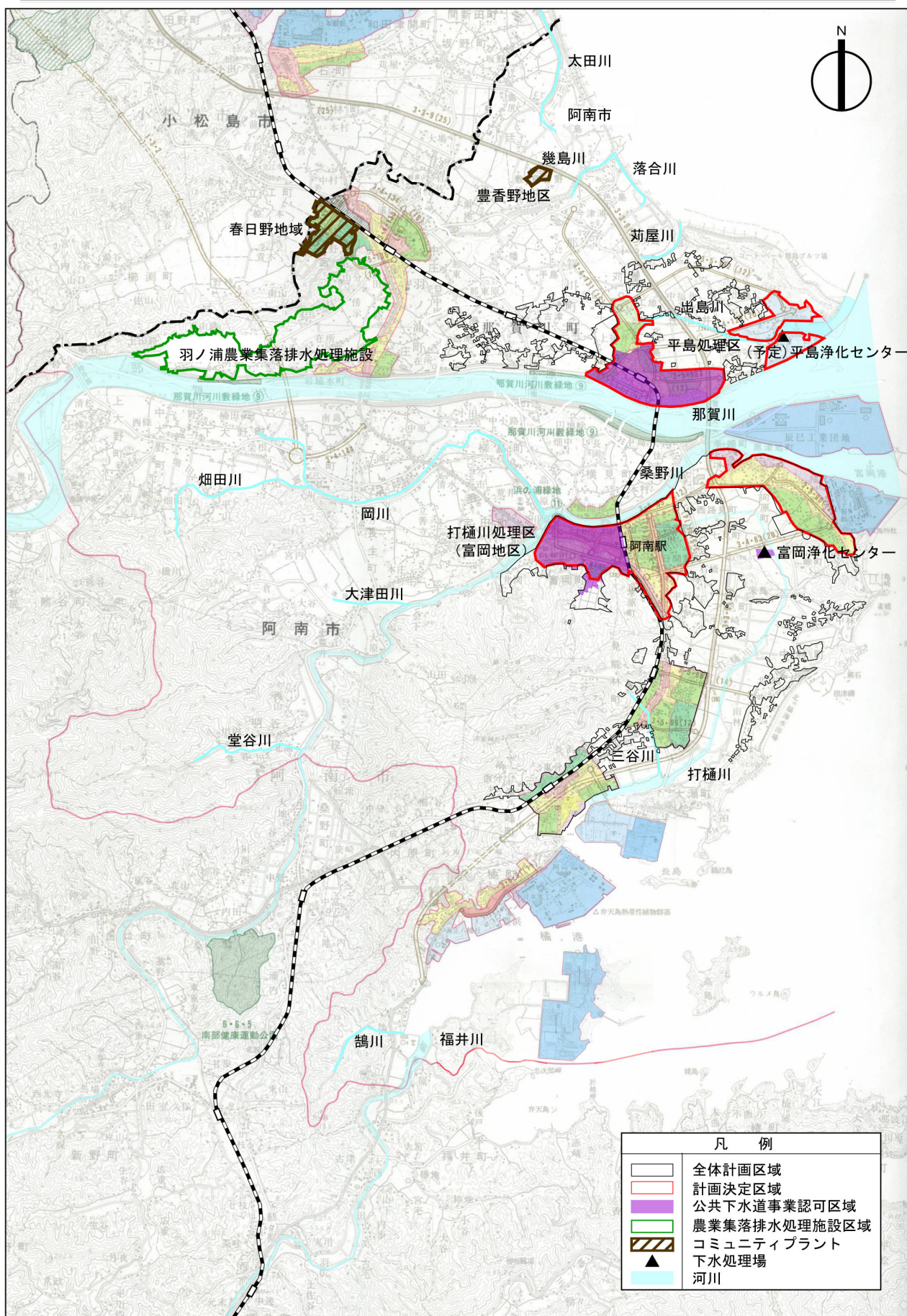


図 1 - 10 下水道計画・河川現況図

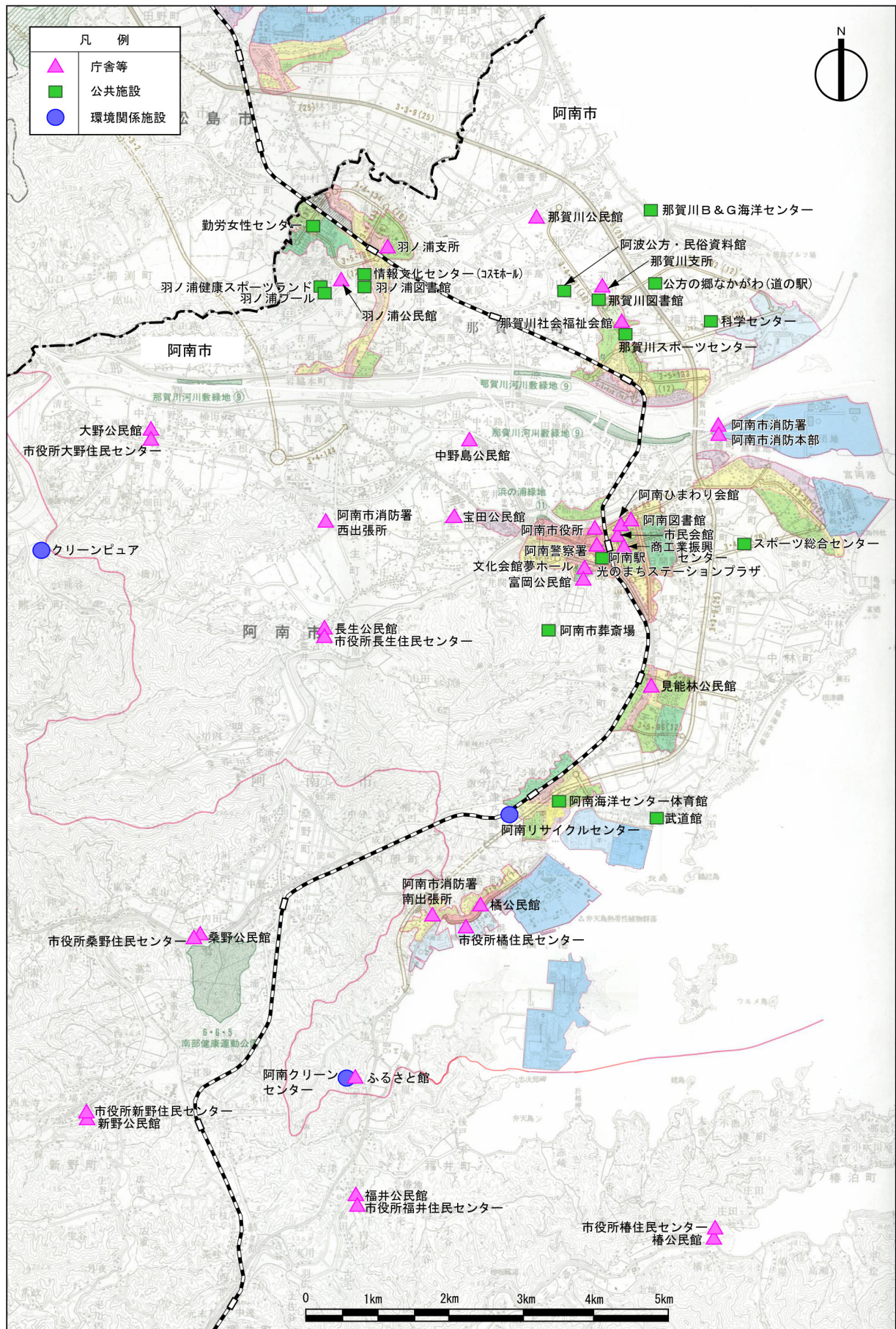
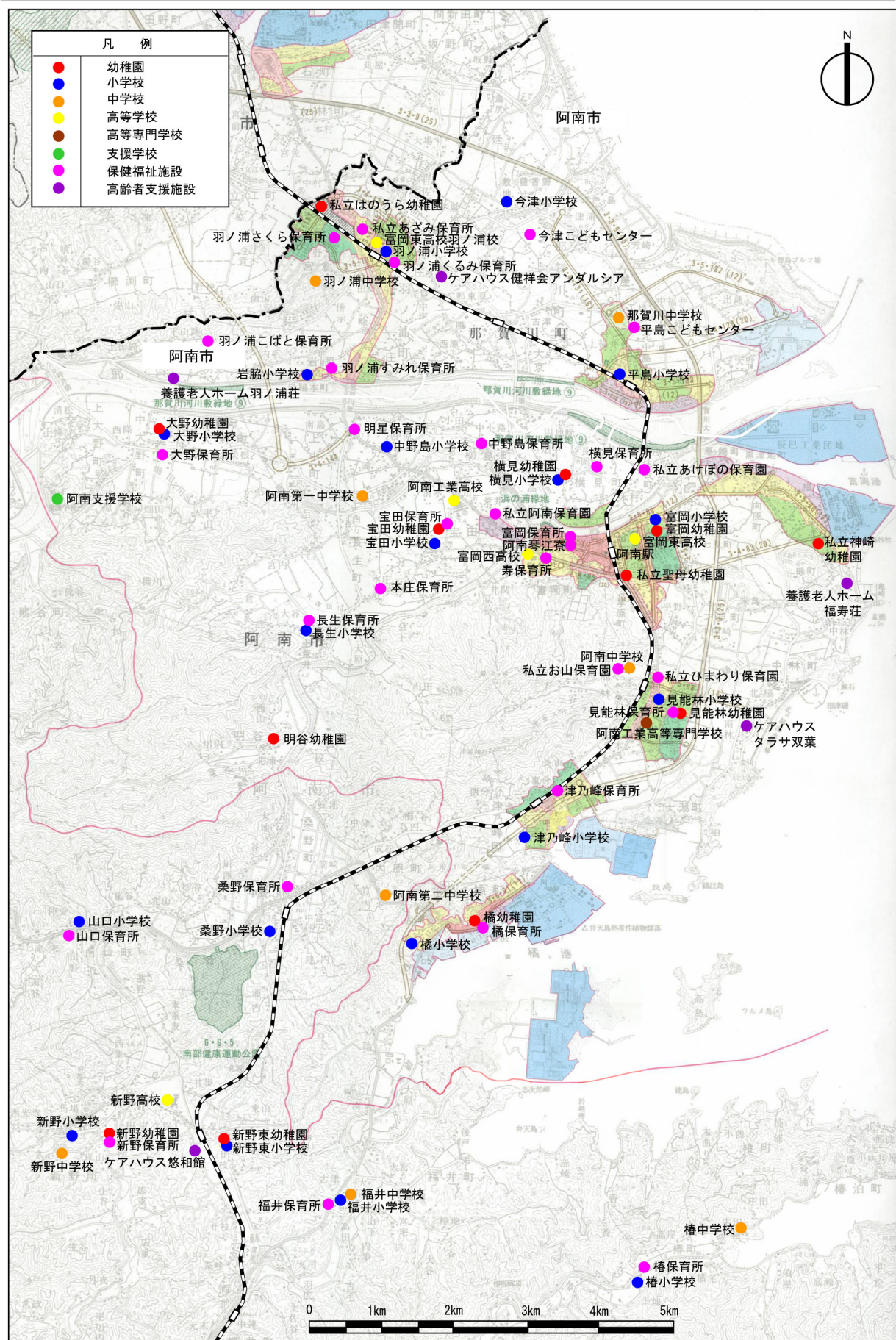


図 1-11 公共・公益施設現況図



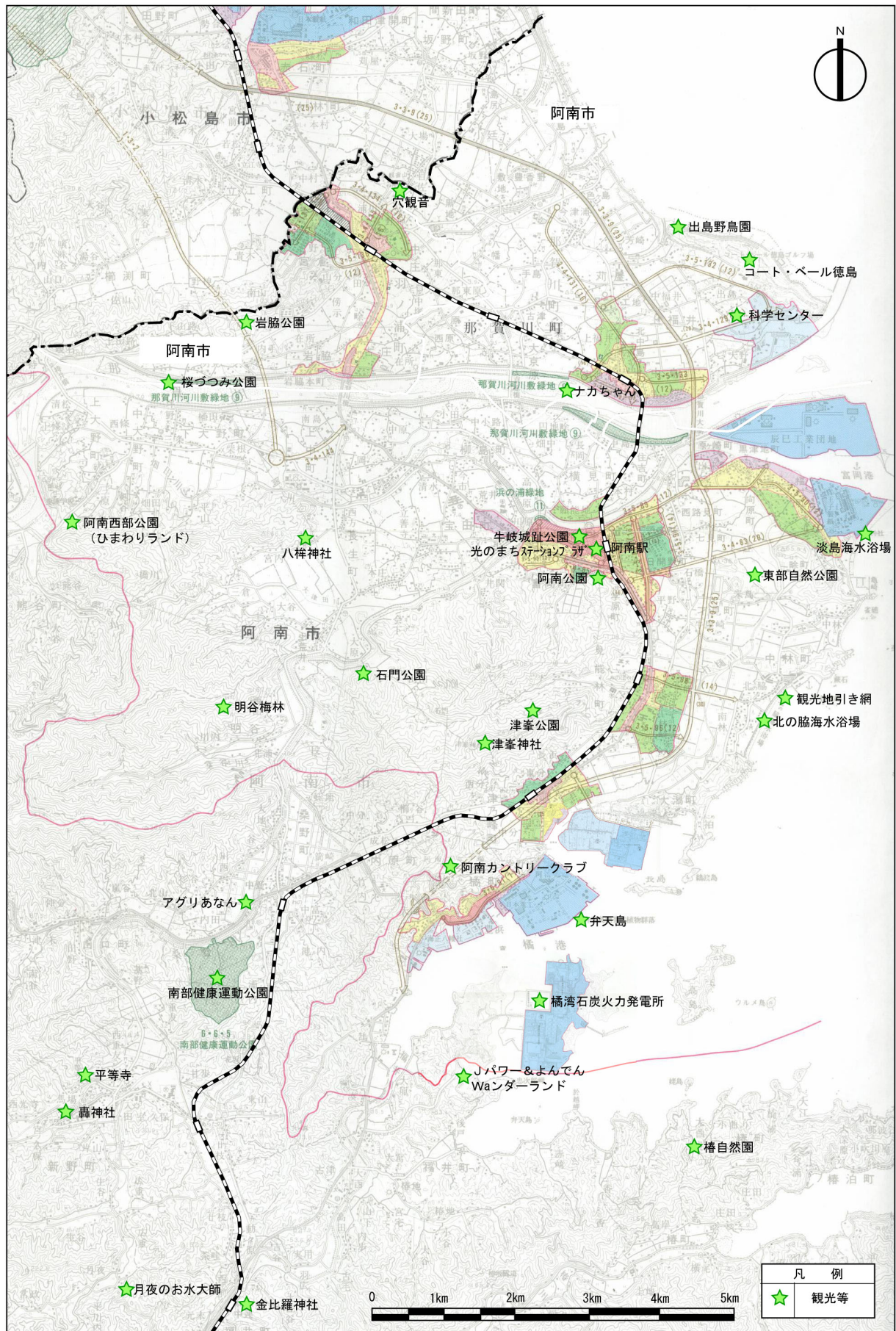


図 1-13 主要観光地現況図

(1) 上位計画

上位・関連計画	整備の方向等
● オンリーワン徳島行動計画（第二幕） （平成 20 年度・徳島県） ◇ 計画期間 平成 19 年度から平成 22 年度までの 4 年間	◇ 基本理念 ・「オンリーワン徳島」の実現 - すべての県民が「徳島に生れてよかった、住んでよかった」と「誇りと豊かさを実感できる 21 世紀の徳島づくり」の推進 ◇ 計画の内容 1 長期ビジョン編 長期ビジョン編は、「時代潮流と将来展望」を的確に把握した上で、希望の持てる徳島の「めざすべき将来像」を県民の皆さんと共有し、その実現に向けた道筋を示す。 ・将来像の展望時期 21 世紀最初の四半世紀が経過する 2025 年頃 ・めざすべき将来像 ①誰もが自分ならではの幸福を実感できる「幸福社会」 ②地域における幸福づくりに積極的に貢献する「幸献社会」 ③人・もの・情報の活発な交流により幸福感が高まる「幸流社会」
● 徳島県南部圏域振興計画 （平成 18 年 3 月・徳島県南部総合県民局）	◇ 基本方針 徳島県の「オンリーワン徳島」の基本理念の下、南部圏域の魅力、個性を十分に引き出し、地域の人々が地元を愛し、「ここに生れてよかった、住んでよかった」を実感できる南部圏域の実現をめざす。 ◇ 対象区域 阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町 ◇ 課題解決のための理念・視点 1 課題解決のための二つの理念 ①圏域としての地域づくり ②自然環境の保全・復元と共生による地域づくり 2 課題解決のための四つの視点 ①「住民の目線」「地域の目線」に立った地域づくり ②県、市民、住民の緊密な連携 ③「ピンチをチャンスに」逆転の発想 ④持てる資源の有効活用
● 徳島東部都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更 （徳島県） ◇ 目標年次 平成 12 年を基準年として、中期的目標年次を平成 22 年、長期的目標年次を平成 32 年とする。	◇ 範囲 徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市、吉野川市、石井町、那賀川町、羽ノ浦町、松茂町、北島町の 5 市 5 町の行政区域の全域もしくは一部を範囲とする。 <都市づくりの理念> 県都徳島市を含む本県を代表する広域都市圏であり、四国と近畿の結節点としての立地条件や豊かな自然環境を活かし、広域交流拠点としての都市機能の集積がゆとりある環境と共存する都市圏、変化に富む豊かな自然を活かして都市と農山漁村が連携する都市圏を実現するため、「ゆとりあるネットワーク型の都市」を将来像とする。 ・各市町の独自性を尊重しつつ、広域的な連携を強化する。 ・自然と調和した都市環境の形成を進める。 ・安全で安心して暮らせる都市づくりを行う。 ・全ての人が住みやすい、快適で効率的な都市形成を図る。 ・住民参加による都市づくりを進める。 <地域ごとの市街地像> 徳島東部都市計画区域は、徳島圏域、鳴門圏域、小松島圏域、阿南圏域、鳴島圏域に区分される。 阿南圏域は阿南市、那賀町、牟岐町、美波町及び海陽町からなる南部地方生活圏の中心都市として、都市機能の充実とともに産業と自然環境の共生を図りながら定住交流拠点都市をめざす。

●第5次阿南市総合計画 (平成23年3月・阿南市) 平成23年度～平成32年度	◇将来像 ひと、まち、心をつなぐ笑顔の光流都市 ◇まちづくりのテーマ 「快適」「輝き」「創造」 ◇施策の柱 1 心地よく住みやすいまちをつくる 2 健やかで笑顔のあるまちをつくる 3 美しくひかり輝くまちをつくる 4 活力と夢を育むまちをつくる 5 豊かな心と学びのあるまちをつくる 6 みんなで築くまちをつくる
--	--

(2) 関連プロジェクト

近年の主要プロジェクトは、以下のとおりです。

プロジェクト	内 容	状 況
四国横断自動車道 阿南安芸自動車道	阿南市と安芸市をつなぐ高速自動車国道が建設予定であり、県都徳島市と県南地域が高速交通網で結ばれる予定。	整備中
国道55号阿南道路	徳島市と阿南市をつなぐ南北軸として整備されており、南部の未整備区間を残す。	整備中
国営総合農地防災事業	那賀川の3ヶ所の堰を南岸堰上流に統合し、堰の機能回復による災害の未然防止を図るとともに、用排水の分離による農業用水の水質保全を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定に資する。	整備中
陸上自衛隊駐屯地及び 宿舎	災害派遣等の迅速な対応が危惧されていたことから、陸上自衛隊駐屯地として整備を図る。	整備中
新庁舎建設	老朽化や狭隘化が進行するとともに施設の耐震性など様々な問題点が指摘することから、現在地において新庁舎を建て替える。	整備中
ゴミ処理場の建設	新たに、熱回収施設又はごみ燃料化施設及びリサイクルセンター、ストックヤード、管理啓発棟を統合した『新ごみ処理施設』を橘町小勝に整備する。	整備中
都市計画道路領家日開 野線	国道55号阿南道路の開通により、富岡港線並びに領家学原線が混雑していることから、交通量の分散更には社会基盤の整備並びに生活の安定を図るため、当該道路の整備を図る。	整備中
公共下水道 打樋川処 理区(富岡地区)	全体計画676haの内、事業認可を受けた80.8ha(富岡地区)から事業着手。	整備中
防災公園整備事業	東南海・南海地震に対する一次避難所の確保のため津乃峰、橘、ゆたか野の3地区において防災公園の整備を図る。	整備中
都市計画道路佃町滝ノ 下線	沿線には、公共公益施設が多数立地し、JR阿南駅を中心に路線バスや高速バス等の公共交通の結節点となっており、都市機能の強化を図るため、当該道路の整備を図る。	整備中

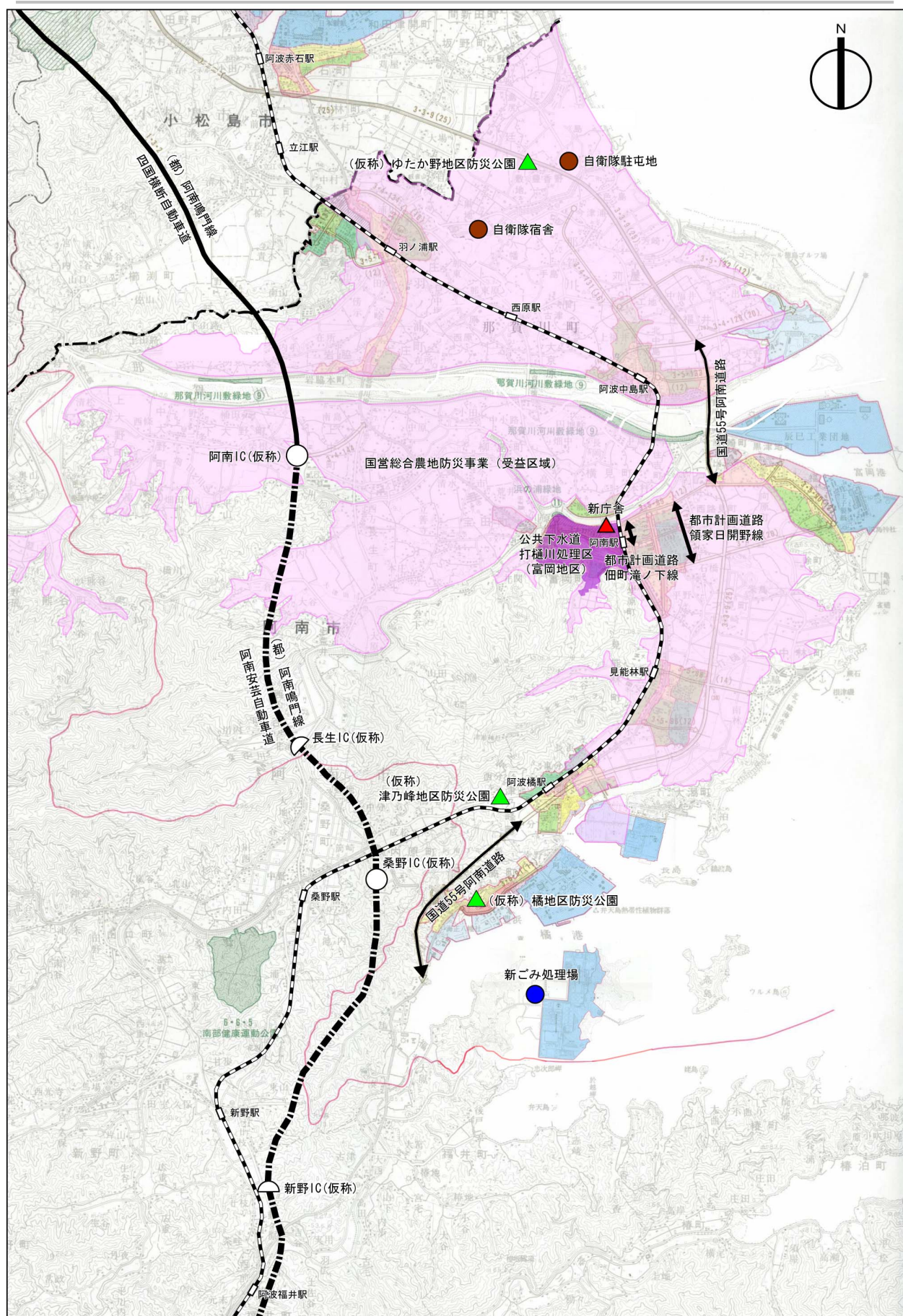


図 1-14 プロジェクト位置図